私立学校専門研修会 次世代リーダー育成部会

実施報告

◇主催 一般財団法人日本私学教育研究所 ◇後援 日本私立中学高等学校連合会 研究のねらい

日本の教育を牽引する私学のチカラ ~更なる進化の道を模索する~

少子化や経済不況、災害の影響などによって、学校経営環境が著しく変化する中であっても、学校が未来永劫的に存続・発展し、子供たちの未来の礎を築くことは社会的な使命である。学校経営者には、「変化を読み取り柔軟に対応する能力」、「的確な決断を下すための知識」が求められており、将来的に学校経営の舵取りを任されることになる経営後継者に求められる役割と責任は益々大きくなっている。当部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、次の時代を見据え、自校と経営後継者の理想とする将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携し自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得する。また、現職の学校経営者が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、関係者とのネットワークづくりや情報交換の場とする。

本年度は、変化を求められる時代において私学の次世代リーダーが、これからの世界を担う子供たちを支え、育むための経営体制の構築に向けた方策とそのヒントを探る。

はじめに、吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長/当研究所理事長(中央教育審議会委員)が、 私学を取り巻く最新情勢や課題について講話する。つぎに、近藤彰郎・日本私立中学高等学校連合会副会 長/一般財団法人日本私学教育研究所理事/一般財団法人東京私立中学高等学校協会会長からこれからの 私学を担うリーダーへメッセージを送る。

講演 I では、**菅沼 宏比古・学校法人西海学園理事長/長崎県私立中学高等学校協会副会長**を講師に迎え、 創業家として大切にしていること、長崎県私学団体役員の立場から私学が連携・協力していくことの重要性 について講演を行う。

午後は、経営危機を乗り越え、現在は県内外から多数の生徒が集まる**創成館高等学校**を視察する。視察では、**奥田修史・学校法人奥田学園理事長/創成館高等学校校長**から学校改革・学校経営について、更に次世代のリーダーに望むことについての講演と施設見学等を行う。

ネットワーキングパーティ等の交流プログラムでは、リーダーが本音で語り合うネットワーク構築の機会を提供する。

会期 令和元年11月29日(金)

開催地・会場 ホテルニュー長崎

長崎県長崎市大黒町 14-5 (JR 長崎駅隣接・徒歩約1分 / 長崎空港からリムジンバスで約40分長崎駅前下車・徒歩1分) TEL:095-826-8000(代)

参 加 者 数 43名

参 加 対 象 A. 次世代リーダー(次世代の理事長・校長等)を志す者

- B. ニューリーダー (新任の理事長・校長等)
- C. 次世代リーダーを育成する現職リーダー (現職の理事長・校長等)
- ※ 参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

基本日程

	09	10 50	11	0 10	13 10	14	15	16	17	' 18	30 19	
11月 29日 (金)	受問行	.	講話	② 講演 I	パワーランチ	移動	創成飢	③ 校視察 ※ 官高等学校 講演 II		移動	④ ネット ワーキング パーティ	

☆プログラム

① 講 話

一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉 Ħ

日本私立中学高等学校連合会 会長(中央教育審議会委員)

彰 郎 近 藤 一般財団法人日本私学教育研究所 理事

日本私立中学高等学校連合会 副会長

-般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長

② 講 演 I

◆演 題 「経営に活かす2つのチカラ ~創業家の矜持と私学の連携~1

◆講 師 菅 沼 宏比古 学校法人西海学園 理事長/長崎県私立中学高等学校協会 副会長

〈講師プロフィール〉**菅沼 宏比古**(すがぬま ひろひこ)

平成8年に学校法人西海学園理事長、平成15年より菊の香幼稚園園長に就任し、現在に至る。平成21年~平成 26年に西海学園高等学校校長を務めた。現在、長崎県私立中学高等学校協会副会長、公益財団法人長崎県私 立学校退職金財団理事、長崎県私立幼稚園連合会理事を務める。

③ 学 校 視 察

※学校視察での授業見学はありません(期末考査日の為)。

創成館高等学校

長崎県諫早市貝津町 621 (長崎本線「喜々津」駅/「西諫早」駅下車 徒歩 20 分) 学校法人奥田学園 理事長/創成館高等学校 校長 奥田修史

☆視察プログラム

施設見学

講演 Ⅱ

「なぜドン底の学校と子供たちは立ち直ったのか。」 ◆演 題

~リーダーの「熱」が組織を変える~

◆講 師 奥 田 修 史 学校法人奥田学園 理事長/創成館高等学校

〈講師プロフィール〉奥田 修史(おくだ なおふみ)

米国ハワイ大学卒業。帰国後、祖父の代から続く学校法人奥田学園に就職。32歳で理事長、34歳で創成 *木国ハリイ人子卒業。帰国後、祖父の代から続く子校法人奥田子園に脱職。32歳で埋事長、34歳で創成館高等学校の校長に就任。「偏差値ナシ」まで落ち込み、経営破綻寸前の学校をわずか7年で立て直す事に成功。「九州大学」「東京外語大」をはじめ有名大学への進学実績を伸ばし、部活動においても野球部が甲子園への常連校へ成長。今や、第一志望入学率90%の人気校へと変貌を遂げた。その経営手腕は、各方面より高く評価されており、民間の経営者を含め、多くの関係者が来校している。

●著書 「ヤンチャ校長、学校を変える」(宝島社)

●メディア出演経歴 日本テレビ「心ゆさぶれ!先輩Rock You」「スッキリ!!」
テレビ朝日「ナニコレ珍百景」「キリトルTV」

テレビ東京「日曜ビックバラエティー」 他多数

●講演多数

全体会 質疑応答・視察校教員との意見交換など

<参加者交流プログラム> ※学校・地域を越えた私学人のネットワークづくりの場。名刺をご持参下さい。 パワーランチ 参加者同士の情報交換・ネットワークづくりの為の交流昼食会(立食形式)

④ ネットワーキングパーティ

研修会を振り返りながら、参加者、関係者のネットワークを築き、 絆を深める為の懇談夕食会 (着新法・全員参加。懇談会費は参加費に含む)

講師・指導員(順不同)◆

宏比古 学校法人西海学園 理事長/長崎県私立中学高等学校協会 副会長 菅 理事長/創成館高等学校 校長

学校法人奥田学園 理事長/創成館高 富士見丘中学高等学校 理事長・校長 八雲学園中学高等学校 理事長・校長 $\overline{\Box}$ 暜 \blacksquare

言近 郎 彰 藤

邦 工学院大学附属中学高等学校 方 行

蒲田女子高等学校

専門委員・指導員(順不同)◆

樹 木

近 藤 彰 郎

東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長 八雲学園中学高等学校 理事長・校長 八雲学園中学高等学校 理事長・校長 学校法人石川高等学校・石川義塾中学校 理事長・校長 藤村女子中学高等学校 理事長・校長 森 涼

あゆち 抣 前 \blacksquare

本 -般財団法人日本私学教育研究所 理事•事務局長

プログラム・内容は変更になる場合があります。

11月29日(金)

「研修会場 ホテルニュー長崎 3階 鳳凰閣(東)の間]

	29日(金)						
09:00~ 09:30	受付 3階 <鳳凰閣(東)の間>						
09:30~ 09:50	開会式 司会 川 本 芳 久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長 ☆開 会 ☆来賓・役員・専門委員紹介/日程説明						
	☆主催者挨拶 平 方 邦 行 一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長						
10:00~ 11:00	講 話 近 藤 彰 郎 一般財団法人日本私学教育研究所 理事日本私立中学高等学校連合会 副会長一般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長						
	吉 田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 日本私立中学高等学校連合会 会長(中央教育審議会委員)						
11:10~ 12:10	講演 I 司会・講師紹介 森 涼 次世代リーダー育成専門委員						
	☆演 題 「経営に活かす 2 つのチカラ 〜創業家の矜持と私学の連携〜」 ☆講 師 菅 沼 宏比古 学校法人西海学園 理事長 長崎県私立中学高等学校協会 副会長						
12:10~							
13:10 13:10~	パワーランチ (着席形式による情報交換・交流昼食会) 会場: 3階〈丹頂の間〉						
14:00	移 動 (※貸切バス) ※13:00 までに会場1階正面玄関にお集まり下さい。						
14:00~ 17:00	学校視察 ※授業見学はありません(期末考査日の為)						
	創成館高等学校 長崎県諫早市貝津町 621						
	昭和37年(1962年)創立、昭和63年(1988年)より校名を「創成館高等学校」に改称。「自発徹底」を校訓とし、普通科(普通コース、特別進学コース、ライセンスコース)、デザイン科を設置して、「思いやりがあり、自分で考え、自分で行動出来る人」の育成に取り組んでいます。 更に、創成館高等学校独自のキャリア教育プログラムである「夢map」や、自ら考え、学び、行動し、様々な問題を解決していく人の育成のためのプログラム「7つの習慣 J®」を長崎県で初めて導入するなど、特色ある取り組みを行っています。 少子化傾向の中、9年連続で定員を上回る入学生を受け入れており、生徒・保護者からも高い評価を受けています。 活動も活発で、全国高等学校野球選手権大会と選抜高校野球大会の出場経験を持つ野球部をはじめ、運動部、文化部ともに多くの実績を残しています。						
	【視察プログラム】						
14:00~ 14:30	☆ 施設見学 ☆ 講演Ⅱ						
14:45~ 16:15	☆ 講演 Ⅱ 演 題 「なぜドン底の学校と子供たちは立ち直ったのか。」 ~リーダーの「熱」が組織を変える~						
	講師 奥田(修)史)学校法人奥田学園 理事長/創成館高等学校 校長						
16:15~ 17:00	☆ 全体会 質疑応答・視察校教員との意見交換など お礼のことば 前 田 均 次世代リーダー育成専門委員						
17:00~ 18:00	移動(※貸切べス)						
18:00~ 19:30	ネットワーキングパーティ(着席形式) 会場: 3階〈丹頂の間〉						
	司会高橋あゆち次世代リーダー育成専門委員						
	☆開会挨拶 中 川 武 夫 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長 ☆乾 杯 ☆懇 談						
	☆ 研修会総括・閉会挨拶 木 内 秀 樹 次世代リーダー育成専門委員長						

本年度当部会は、11月29日(金)、長崎県長崎市・ホテルニュー長崎において「日本の教育を牽引する私学のチカラ〜更なる進化の道を模索する」を研究のねらいに開催し、17都道府県から43名が参加した。午前は開会式に続いて近藤彰郎理事、吉田晋理事長による講話、菅沼宏比古・学校法人西海学園理事長による講演「経営に活かす2つのチカラ〜創業家の矜持と私学の連携〜」を行った。パワーランチを挟み、創成館高等学校の視察では、生徒の活動や教職員・生徒の案内で同校の特色ある取り組みを見学し、奥田修史・同校理事長・校長による熱のこもった講演「『なぜドン底の学校と子供たちは立ち直ったのか。』〜リーダーの「熱」が組織を変える〜」の後、質疑応答を行った。ネットワーキングパーティでは、参加者が情報を交換するとともに交流を深めた。参加者からは「トップとして、私学人としてのあり方を勉強できた」等の感想が寄せられた。

開会式

主催者挨拶

一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長 平方 邦行

日本の教育を牽引するために私学の力が不可欠な状況だと実感している。 20世紀の後半から世界の国々は創造性、創造力を学校教育の中でいかに 育てるかを中心にして色々な取り組みをしてきた。未来に起こってくる問題を解決 できるのは、この創造性だと世界は考えているが、日本はそう思っていない。 世界は早いスピードで変化している。生徒に創造力をどのように身に付けさせるかを 考えて教育を行っていくのかを私学は考えていってほしい。



講話

一般財団法人日本私学教育研究所 理事 **近 藤 彰**日本私立中学高等学校連合会 副会長 一般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長

私学を守っていくためにはどうするのか考えていかないといけない。平方先生が 未来を見据えてこれから何をなすべきかを象徴的に話された。これも、私達と 無関係ではない。今のことだけでやっていると私学の未来が危うい。

今、私学は自主性を保っているが、この原点を皆さんは守っていかないといけない。私学の自主性、建学の精神を守っていくためには、団結して言うべきことを言っていくことが欠かせない。自校も大事だが、協会・中高連の活動にも接点を持って協力することは、私学のリーダーにとって大切なことだと私は思っている。



一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 **吉 田 晋**日本私立中学高等学校連合会 会長

次世代リーダーには、近藤先生が話された今のリーダーを支える気持ちが大切だ。次世代リーダーから見て今のリーダーの考えが時代の変化によって古く思えても、真っ向から反対するのは望ましいことではないと思う。そして、私学の横の繋がりによる協力が必要だ。私学は建学の精神で成り立っているが、建学の精神だけではダメだ。私自身、若い時に人脈をつなげてもらった。やはり人は力だ。その人脈が一つになることが、全国の私学の力となる。協力して私学の底上げをしていきたい。そのためにも、皆さんの活躍に期待している。



~参加者からの声(講話について)~

- ○次世代リーダーは現職リーダーを支えるべきであるという点や、私学としてやるべきことを考える必要が あるという点が参考になった。
- ○私学としての独自性を貫く勇気を頂いた。
- ○私学を取り巻く現状を知ることができ、今後にどう生かすかを考えることになった。
- ○私学人としての心構え、教育界全体の動き、未来の社会にむけて生徒をどう育てて送り出すかが参考になった。

講演I

「経営に活かす2つのチカラ ~創業家の矜持と私学の連携~」

学校法人西海学園理事長 **菅沼宏比古** 長崎県私立中学高等学校協会 副会長

自身の経験から得たことや、リーダーとして、更にこれからの私学人として 大切なことを語り、私学が団結することの大切さを強調した。経験に基づく力 強いメッセージが参加者の心に響いた。

~参加者からの声(講演 I について)~

- ○スクールリーダーとしての様々な体験をお聞きすることが出来て良かった。
- ○実際の事例から語られるメッセージの数々が大変勉強になった。
- ○トップとして、私学人としての在り方を勉強できた。
- ○協会の盛り上げという点が参考になった。



パワーランチ

昼食をとりながらのリラックスした雰囲気の中、参加者同士の情報交換が行われ、良いネットワーク作りの場となった。

学校視察

〈施設見学〉

参加者はダンス部員によるダンスパフォーマンスに迎えられ、案内役の生徒や視察校教職員からの説明や質疑 応答を通じて、視察校の取り組みを視察した。生徒達はハキハキと明るく、楽しく実りある施設見学となった。





<講演 II >

「なぜドン底の学校と子供たちは立ち直ったのか。」~リーダーの「熱」が組織を変える~

学校法人奥田学園 理事長 奥田 修史 創成館高等学校校長

学校改革、リーダーが持つべき姿勢について、自身の経験や考えを話した。 熱意あふれる講師の変革への挑戦と道をひらくリーダーとしてのポジティブな 姿に、参加者は感銘を受けた。

〈質疑応答〉

参加者から非常に多くの質問が寄せられ、当初の予定を延長して行われた。 奥田先生をはじめ、同校教職員から丁寧な回答があり、参加者にとって大い に参考になる内容で充実した時間であった。



~参加者からの声(学校視察について)~

- ○奥田先生の熱量に感銘を受けた。
- ○様々な創意工夫から沢山のヒントを与えて頂いた。
- ○奥田先生の改革への推進力、発想力に感心し、自らの至らなさを意識する場となった。
- ○様々な問題をどのように解決されたのか、とても参考になった。

ネットワーキングパーティ

講師の菅沼宏比古氏、視察校の奥田修史氏を来賓に迎え、次世代リーダー・現職リーダーらによる教育懇談会が行われた。中川武夫所長の開会挨拶、次世代リーダーによる乾杯後、参加者はフランクな雰囲気の中、情報を交わし、交流を深めた。木内秀樹専門委員長が参加者にエールを送り、研修会を締めくくった。







次世代リーダーによる乾杯



木内秀樹・専門委員長

~参加者からの声~

問1. 当研修会への参加の目的について

- ○情報収集とネットワークを広げたい。
- ○学校視察(面白い学校だと聞いたことがあったため)。
- ○私学情勢の最新情報を知るため、またリーダーとしての知見を得るため。
- ○数多くの意見を聞くことにより、今後の学園経営、職員室経営に役立てるため。

問2 当研修会の交流プログラム・全体の内容等について

(パワーランチ)

- ○色々な方と名刺交換できた。
 ○懇親を深められた。
- ○昨年までに知り合えた方々とゆっくり話すことができた。
- ○同じテーブルの先生方と情報交換ができた。良い時間だった。

(ネットワーキングパーティ)

- ○大変親しく交流できた。
- ○同じテーブルの先生が北海道から九州までの学校で、1 つの話題に対して比較しながら聞けたのが良かった。 (その他)
- ○良い企画だった。

問3 最も重要視(又は直面)する喫緊の課題・関心事、その選択理由・具体例

	課題	記入数
1	私学経営、学校運営	7
2	私学助成、就学支援金、教育無償化、私立学校法・制度改正	3
3	教育環境整備(耐震化·ICT等)	4
4	生徒募集、公立の私学化、特色教育	3
5	新しい教育(グローバル、ICT活用、STEAM教育、プログラミング等)	4
6	大学入試・高大接続改革	2
7	学校改革	3
8	教員の働き方改革・採用・育成・研修	7
9	その他 ()	1

- ○課題 5 私学の独自性をどのように教育に反映させるか。
- ○課題4 生徒の減少に伴い、生徒募集が激化する中、選ばれる学校とは、どのような学校なのか。
- ○課題8 色々と問題があり、先進的に取組んでいる例を知りたい。
- ○課題8 どうすれば教員が生き生きと働ける環境を整えられるか悩んでいるから。
- ○課題9 他校、大学とのアライアンス。

問4 来年度以降の当研修会、日私教研の研修事業に対する要望等

(テーマについて)

- ○教育評価
- ○リーダーシップ論
- ○働き方改革、未来を見据えた教育

(視察校について)

○設備が最新、特色ある施設の視察

(会期・開催時期について)

- ○朝から夜までのプログラムであることで、前泊が必要になる。 1 日目の午後~2 日目の午前中までなど、 一泊で済むプログラムは可能か。
- ○土曜日にかからないように、木曜日に終わる方が良い。

◆都道府県別参加者数◆

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	1	17	石 川	0	33	岡山	0
2	青 森	0	18	福 井	0	34	広 島	1
3	岩 手	0	19	山 梨	0	35	日口	0
4	宮城	2	20	長 野	0	36	徳島	0
5	秋 田	0	21	岐 阜	0	37	香 川	0
6	山形	0	22	静岡	2	38	愛 媛	0
7	福島	0	23	愛 知	1	39	高 知	0
8	新 潟	0	24	三重	0	40	福岡	7
9	茨 城	0	25	滋賀	0	41	佐 賀	1
10	栃 木	0	26	京 都	0	42	長 崎	2
11	群馬	0	27	大 阪	7	43	熊 本	1
12	埼 玉	0	28	兵 庫	2	44	大 分	0
13	千 葉	1	29	奈 良	1	45	宮崎	2
14	神奈川	0	30	和歌山	0	46	鹿児島	5
15	東京	6	31	鳥 取	0	47	沖 縄	0
16	富山	1	32	島根	0			_
	17 都道府県 計							43